

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高須中 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

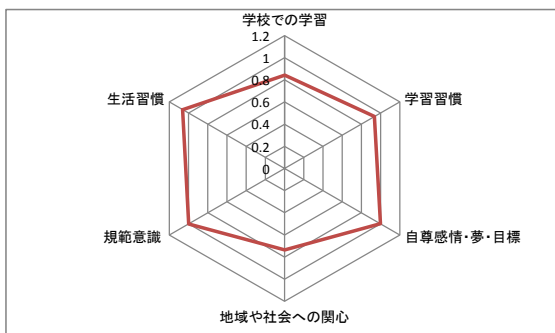
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均とほぼ同程度であった。読むことの領域では、全ての問題において全国平均よりも高い正答率であったが、言語についての知識・理解・技能の問題では、無解答が多く、正答率も低い。	全国平均正答率との比較 同程度
	よってきた問題	文章の展開に即して情報を整理し、内容を整理する問題や、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く問題や、行書の基礎的な書き方を理解して書く問題	
国語B	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均とほぼ同程度であった。視覚的資料と文章との関係を考えながら内容を捉える点で課題が見られる。	全国平均正答率との比較 同程度
	よってきた問題	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立つ問題	
	努力が必要な問題	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える問題	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回ったが、資料の活用の領域の問題は正答率が全国平均を大きく上回った。図形領域の問題の中には、無解答率が高い問題もあり、課題が見られる。1・2年生の復習を行いながら、今後の学習を進めていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	資料の活用における中央値の求め方や相対度数、確率の意味を問う問題	
	努力が必要な問題	図形の領域における回転させてできる立体の名称を問う問題	
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均とは同程度であったが、図形や関数の領域の正答率が全国平均を上回った。特に図形の証明や事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の正答率が高かった。また、情報を分類整理し、不確定な事象の確率を求める問題に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 同程度
	よってきた問題	数と式の領域における計算結果を求める問題や関数の領域における道のりを求める問題	
	努力が必要な問題	資料の活用における確率を用いて説明する問題や、数や式の領域における通常料金を計算からわかることを説明する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均とは同程度であったが、主として「知識」に関する問題は全国平均を上回った。新しい実験方法などでも、既存の実験との共通点を考えられるようにする必要がある。また、実験や身近な現象から本質を見出すことに課題が見られた。	全国平均正答率との比較 同程度
	よってきた問題	濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘する問題や、光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用する問題	
	努力が必要な問題	炎の色と金属に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習が定着しておらず、1日1時間以上の家庭学習に取り組む生徒は6割程度である。1学期末の学校独自のアンケートを見ても変化がない。 ・将来の夢や希望をもっている生徒や、人に役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合は全国平均と同じくらいである。それぞれの夢を実現させるためにキャリア教育を行うとともに、具体的な目標設定を行い、行動に結びつけていかなければならない。 ・地域の行事に参加する生徒や、地域や社会で起こっていることに関心を持っている生徒の割合が極端に低いのが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

めあてとまとめの整合性が図られたパターン化された授業の実施と、学習した内容を実生活に結び付け、それを活用する力を高めるための教材作り、深い学びにつなげる話し合い活動の充実など、今後も学校全体で授業改善を推進し、授業力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

地域清掃やボランティア、部活動の地域行事への積極的な参加などを推進し、シビックプライドを醸成していく。定期的な生活アンケートを実施して、生徒の生活習慣を把握した上で、教育相談や保護者懇談会、通信などを通じて、生徒・保護者に家庭学習の大切さを啓発していく。